英語科学習指導略案

日 時 令和４年６月９日(木)5 校時
対 象 第３学年C組
場 所 ３年C組教室

1 単元(題材)名

Unit3 Lessons From Hiroshima

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
現在完了形の「継続」、現在完了進行形、It is～(for 人)＋to＋動詞の原形について理解し、活用(聞き取る、話す、書く、読む)することができる。	・文章を適切に読み取り、理解している。 ・自分考えや感想を友達に伝えるために、考えや感想を整理して、発表することができる。	・既習事項を活用しながら、様々な場面での英文を考え、表現しようとしている。 ・自分の考えや感想を相手に伝えようとしている。

3 展開（全８時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1 (本時)	○現在完了の「継続」用法について理解する。 ○現在完了の「継続」用法を使って書いたり、話したりする。個 集 ・現在完了の「継続」用法を使用して、様々な場面での英文を考え、表現する。 **★【問いの工夫】「日常生活の中で、「継続」の用法をつかって話せることってありますか。」** **★【活動の工夫】継続表現の中でも、答えの表現が複数あるものを選ぶ。ペア(集団)で考えることにより、多方面からの視点で考え、気づかせる。**
2	○現在完了の「継続」用法を使った会話を聞く。 ○本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。個 集 ・文章を適切に読み取り、理解する。
3	○現在完了進行形について理解する。 ・現在完了進行形を使った会話を聞いたり、話したり、書いたりする。個 集 個 ・現在完了進行形について理解し、活用(聞き取る、話す、書く、読む)する。
4	○本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。個 集 ・文章を適切に読み取り、理解する。
5	○＜It is ～ (for 人)＋to＋動詞の原形＞について理解する。 ・＜It is ～ (for 人)＋to＋動詞の原形＞を使った会話を聞いたり、それを使ってか話したり書いたりする。個 集 個
6	・本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。 個 ○正しい発音とイントネーションで音読をする。
7	・手記を読んで、西村さんの経験や心情などを読み取り、感想をもつ。個 ○文章を適切に読み取り、理解する。
8	・自分の考えや感想を整理して、発表をする。個 集 ○考えや感想を整理して、発表する

4　本時の展開

ねらい：現在完了の「継続」用法を活用し、伝えたいことを表現することができる。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （10 分）	○45sec. TALK ○Sing a song ・”really”の発音を意識する。 ○イラストをみて質問に答える。 ・聞かれたことに対しての適切な答えをみつける。	・“really”の発音を意識させる	
展開 （35 分）	○Presentation ・現在完了について復習する。 ○Practice 「継続」用法について理解する。 **現在完了の「継続」用法を活用して、より多くの表現をさがそう。** ○Production 個例文を作成し、発表する。 集例文を共有し「継続」用法を活用する。 個様々な過去分詞を使用し、現在完了（継続）の文章を作成する。	・同じ場面でも、様々な表現方法があることを気づかせ、1つでも多くのアイデアをだし、共有する。	【知・技】 「継続」用法を理解しているか。 （ノート）
終末 （5 分）	○振り返り 個発表した文章がどの場面でどのように使えるか考える。		【思・判・表】 「継続」用法の様々な活用について考えようとしている。 （ノート）（観察）

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。

国語科学習指導略案

日　時　令和4年９月８日(木)３校時
対　象　第3学年C組
場　所　3年C組教室

１　単元(題材)名
　　俳句の世界　および　俳句十句

２　単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・俳句で使われている語句の意味を理解し、語感を磨いている。	・語句の選び方や表現の仕方を工夫して俳句を作っている。 ・季語とその情景の組み合わせを想像して鑑賞している。	・文章の種類とその特徴について理解し、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。

３　展開（全４時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1	俳句の基本を理解し、鑑賞する力や創作する力を養おう。 ○基本的な俳句の形式や技法、創作法などの知識を学習し、プリントに書き留める。個
2	名句の鑑賞し、交流を通じて、俳句の奥深さを感じよう。 ○季語の捉え方で鑑賞に違いが生まれる「古池や蛙飛び込む水の音」を引き合いに出し、鑑賞の奥深さ、捉えるべきポイントをつかませる。個 ○教科書掲載の名句を選び、鑑賞し、それぞれの感じ方・捉え方の違いや共通点を交流し、懐の広い俳句を味わわせる。集
3	既習事項を活かして、工夫を凝らした俳句を創作しよう。 ○各季節の思い出を記述し、そこからオリジナリティある俳句のタネを採取する。そこにぴったりくる五音の季語を複数提示し（または自分で探し出し）、俳句を創作する。工夫した点が説明できるよう、プリントに記述する。個
4 （本時）	批判的視点をもって、よりよい作品を選び、交流しよう。 ○前回作った俳句を一覧にし、名前は伏せた状態で各自鑑賞し、一番良いものを選ぶ。個 ○ペアを組み、どうしてその俳句がよいと思ったのか、互いにプレゼンし、批評し合う。集 **★【問いの工夫】「一番良いと思う作品を選び、その良さを説明してみよう。」** **★【活動の工夫】多種多様な俳句からそれぞれの根拠をもって選んだ俳句のよいところや相手の選んだ俳句を批評的視点をもって鑑賞することで、主体的に学びに取り組む態度を育む。**

4　本時の展開

ねらい：批判的視点をもって、よりよい作品を選び、交流しよう。

時　間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （5 分）	○本時の目標の確認。 ○既習事項の確認。 ○本時の流れの確認。	長く説明しすぎないように留意する。	
展開 （35 分）	**選んだ句の良さや鑑賞した内容をペアで紹介し合おう。**		
	○俳句の鑑賞 個一覧にした俳句を比較し、俳句に描かれた季節感が季語と最も合致している俳句を根拠をもって３句選ぶ。	・一覧はタブレットパソコンPDFで閲覧。	【思・判・表】 俳句の内容と季語との一体感を取り上げ、批評しようとしている。 （ワークシート）
	集選んだ3つの俳句を紹介し合い、どの点がよかったのか、どういう点を改善すればその句がもっとよくなるかなどを対話する。	・２人1組でペア学習を行う。 ・対話の様子を見て、行き詰っているところには特に声かけを行う。	
	○全体発表 集どの俳句のどんな批評を行ったのかを各ペアから全体へ発表する。 個各発表を聞き、個人で再度考えたうえで、1句にしぼり、投票を行う。	・話し合った内容を全体に還元する。 ・Form で投票を行う。	
	・得票数の多かった作品を紹介し、その作品を選んだ理由を数名発表する。 ・得票数の伸びなかった俳句もいくつか取り上げ、どんな点を改善したらよりよくなるか、全体で意見を共有する。	・得票数の多かった作品については作者も発表し、どのような情景を想像して作品を作ったか、創作者側の思いも語らせる。	
終末 （10 分）	○振り返り ・本単元（俳句）で学んだ批評力や批判的視点について振り返る。	・俳句を上手に作れたかどうかではなく、自分や仲間の俳句を読み、批評的な視点をもって捉えられたかを振り返らせる。	【思・判・表】 俳句の学習で身に付けた批評力や批判的視点をもつことについて、自分の言葉で振り返りを書こうとしている。 （ワークシートの）

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。

社会科学習指導略案

日 時　令和4年10月17日(月)5校時
対 象　第3学年D組
場 所　3年D組教室

1　単元(題材)名
　3節:現代社会の見方や考え方　①社会集団の中で生きる私たち(2)(東京書籍　新しい社会　公民)

2　単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。	対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的に考察し、表現している。	現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3　展開（全５時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1	集団社会の中で生きる私たち(1)個 ○家族や地域社会など複数の社会集団に所属していることを理解する。
2 （本時）	集団社会の中で生きる私たち(2)個　集 ○社会集団における対立の存在に気づくとともに、合意を目指すことが重要であることについて考察し、表現している。※前時のふりかえりを行う。 次の点に気づかせる(対立が起こった背景を簡単に探る。昔はおおらかだった。現在は安心安全な社会を構築しなければならない世の中になっていること、この問題の合意や解決に必要な年数を考えさせる　個)。 **★【問いの工夫】「この対立を合意に達するために、あなたならどうしますか？」** **★【活動の工夫】実際に社会で起こっている対立事例の DVD を鑑賞し、話し合いで合意に導く方法について考える。**
3	決まりを作る目的と方法　個　集 ○物事の決定の仕方や決まりの意義について理解する。
4	効率と公正　個 ○合意を得るためには効率と公正の考え方が重要であり、その考え方を理解する。
5	決まりの評価と見直し　個 ○必要に応じて決まりを見直すことの重要性を理解する。

4　本時の展開

ねらい：実際に社会で起こっている対立例を知り、個人・話し合いで考えて合意に近づける。

時　間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （3分）	○前時の振り返り ・社会集団で生活していると対立が生じる。それをどうしなければいけないか。	・「合意」という言葉が出なかった場合には、ワークシートを見直させる。	
展開 （42分）	○課題ビデオの視聴 DVD（TBS「噂の東京マガジン」）のビデオクリップを視聴（8分50秒、江ノ電の線路内に昔からの慣習で住民が立ち入っていたが、急に線路横断禁止と道路封鎖にした事例 2014 年）。	・視聴する DVD に、軌道敷内に人が入るシーンがある。これは特例なので、中学生は安全上絶対に軌道敷に入らないことを注意・確認。	
	この対立を合意に達するために、あなたならどうしますか？		
	○事例の確認 ・配布ワークシートに、誰と誰の対立なのかを記入させる。 ・配布ワークシートに、お互いの主張を記入させる。 ○合意形成について考える 個「誰」が「どうすれば」合意できるのかについて自分の考えを記入する。（4分） 集「誰」が「どうするのが良いか」を中心に話し合いをする。（7分） 話し合った結果を発表・共有する ・生徒の意見の共通点、相違点を指摘する。	・鉄道会社と沿線の住民たちであることを確認する。 ・鉄道会社は安全を考えている、住民は昔からの利便性の思いがあることを指摘し、どちらかに課題があるとは思わせないよう配慮する。 ・誰に働きかけるのかを明確にさせ、両者の妥協点を探る	【思・判・表】 あたかも自分に降りかかった問題のように解決策を主体的に構築しようとしている（ワークシート）
終末 （5分）	○振り返り ・本時で学んだことをワークシートに記入させる。 ・合意が必要な点を理解させ、学校は「ミニ社会」であり、それはクラスでも同じことであることを伝える。	・対立があると、ストレスになる。妥協点を見出さなければならない点を伝える。	

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。

数学科学習指導略案

日 時　令和4年6月28日(火)　1校時
対 象　第3学年A組
場 所　3年A組教室

1　単元(題材)名
　　2章　平方根

2　単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・数の平方根の必要性と意味を理解し、$\sqrt{\ }$ の記号を正しく用いることができる。 ・平方根をふくむ式について、四則計算やいろいろな計算ができる。 ・近似値と誤差の意味を理解している。	・有理数と無理数の違いについて考察し，数を分類することができる。 ・分母を有理化する方法を考察し，その意味と必要性を説明することができる。 ・平方根をふくむ式の計算を、分配法則や展開の公式と関連付けて解くことができる ・平方根を具体的な場面で利用できる。	・数学的活動の楽しさや良さを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善し、より良く問題解決しようとする態度を身に付ける。

3　展開（全１７時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1～6	○平方根　個 ・平方根 ・有理数と無理数 **★【問いの工夫】「これまでに学んだ数の関係を整理してみましょう。」** **自然数や整数など数の集合と包含関係を意識して分類させる。**
7～15	○根号を含む式の計算　個―集 ・根号をふくむ式の乗法と除法 ・根号をふくむ式の加法と減法 ・いろいろな計算 ・近似値と有効数字(本時) **★【問いの工夫】「平方根の考え方や無理数の存在はどんな意義があるか考えてみよう。」** **平方根の考え方や無理数の有用性について考えさせる。**
16～17	○章末 **★【活動の工夫】 問題を解く形態にメリハリをつけて相互の理解度を高めさせる。** **個(自力で解く)―集団(教え合いして補い合う)―個(解説をきいて解いたり振り返ったりする)** ・章末問題 ・学習カード

4　本時の展開

ねらい：平方根の考えを使う良さと無理数のすごさが分かる。

時　間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （5分）	○本時の確認と既習事項の確認	・平方根の定義を確認する	
展開 （35分）	○平方根の考えを使う良さを考えさせる。 ・面積の大きさを正方形の一辺と置き換えて大きさをつかませる。 ・丸太からとれる最大の角材の一辺の長さを平方根の考えを用いて導く ○無理数のすごさを考えさせる。 ・コピー用紙のしくみを伝え、長さの比率を平方根の考えを用いて導く ・無理数が存在しない世界を考えさせ、無理数の有用性を実感させる。	・適宜ヒントを出しながら考えさせる。 ・タイマーで時間管理をしながら個と集団のメリハリをつける。	【思・判・表】 平方根の定義を理解しながら、どのような場面で活用できるかを具体的に考えようとしている。（プリント）
	平方根の考え方や無理数の存在はどんな意義があるか考えてみよう。		
	・扱った問題を通して発問に対する答えを自分なりのことばで表現する。	・何人か代表生徒を指名して答えさせる。	
終末 （5分）	○振り返り ねらいについて学習カードに記入する。		【思・判・表】 平方根の考えを使う良さと無理数について記述しようとしている。 （学習カード）

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。

数学科学習指導略案

日　時　令和4年11月8日(火)5 校時
対　象　第3学年E組
場　所　3年E組教室

1　単元(題材)名
　5章「相似」　　第１節「相似な図形」（数研出版　これからの数学３）

2　単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・相似な図形の性質を理解し、それを活用して辺や角の大きさを求めることができる。 ・三角形の相似条件を理解し、それを活用して相似な三角形、辺や角の大きさを求めることができる。	・三角形の相似条件などをもとに，図形の性質を証明することができる。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で利用することができる。	・数学的活動の楽しさや良さを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善し、より良く問題解決しようとする態度を身に付ける。

3　展開（全７時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1	○相似な図形の性質や相似比について理解する。個 **★【問いの工夫】「身近なもので、大きさが違っても形は同じものを考えよう。」（テレビ・コピー用紙・地図など）**
2	○「相似の位置にある」とはどのようなことか理解する。 ・「相似」だけど「相似の位置にない」図形について考えさせる。
3	○三角形の相似条件を導く。 ・実際に作図することで、相似条件に使われている言葉の意味を深く考えさせる。
4	○三角形の相似条件を利用し、相似な三角形を見つける。 ・2年次に、合同の証明で学んだことが、相似でも生かされることに気づかせる。
5	○三角形が相似であることを証明する。 **★【活動の工夫】自分が書いた証明と友達が書いた証明を比較し、多様なアプローチがあることに気づかせる。**
6	○パンタグラフのしくみについて考える。 ・実物を触らせることにより、パンタグラフで2倍の拡大図がかける驚きを実感させる。
7 （本時）	○様々な倍率の拡大図・縮図をかくためのパンタグラフの形を考える。個 集 個 **★【活動の工夫】実際に部品を使って、試行錯誤させることで、成功例と失敗例の違いに気付かせ、相似な図形についての理解を深める。**

4　本時の展開

ねらい：様々な倍率の拡大図・縮図をかくためのパンタグラフの形を考える。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （5 分）	○前時の復習をする。	・授業冒頭にパンタグラフを配っておく。 ・前時に学習した、パンタグラフのしくみについておさらいし、しくみを確認する。	
展開 （40 分）	**3 倍、4 倍の拡大図をかくためのパンタグラフはどんな形か。 また、縮図をかくにはどうすればよいか。**		
	○実物を使って考える。 個3倍、4倍、の拡大図をかくためのパンタグラフの形を考える。 集グループを作り、実際にパンタグラフを作ってみる。 ○応用して縮図をかく。 集縮図をかくためにはどうすればよいか考える。 個拡大図、縮図をかくためにパンタグラフを作るときのポイントをまとめる。	・正解は１つではないことを伝える。 ・部品を渡して、実際に机上で動かしながら考えさせる。 ・穴あけパンチとハトメ玉とハトメパンチをグループに渡す。 ・部品を増やして考えている生徒には、部品を増やさずに倍率を変える方法も考えさせる。 ・実物を見せながら説明する。	【思・判・表】 様々な形のパンタグラフを考えようとしている。 （発言・ワークシート）
終末 （5 分）	○振り返り ・本時で学んだこと、気づいたことを学習カードに記入する。		【思・判・表】 パンタグラフに関心をもち、相似の知識を利用していることに気づいている。 （学習カード）

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。

理科学習指導略案

日 時 令和４年５月17日(火)５校時
対 象 第３学年D組
場 所 第一理科室

１ 単元(題材)名

単元 1「化学変化とイオン」 第１章「水溶液とイオン」

２ 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。また、イオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、その探求を振り返る。	水溶液とイオンに関する事象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

３ 展開（全６時間）

時 間	○学習内容・学習活動 **★【活動の工夫・問いの工夫】**
1	○〈実験1〉電流が流れる水溶液 個 集 どのような水溶液に電流が流れるのかを調べる。電流の大きさ・電極付近の様子も観察する。 ○電流が流れる水溶液と流れない水溶液があることを見いだす。電極付近の様子から、水溶液の中で化学変化が起こっていることに気付く。 **★【問いの工夫】「モーターが回る＝電気が流れる、と言えるのだろうか。」** **★【活動の工夫】身近な物質が電気を通すか意欲的に考える工夫として、家から精製水に溶かしたいものを持ってくることも可とし、個々の発想を大切にして学習活動を開始し、その後、集団で物質の性質について考察することで、理科的な考え方を身に付けさせる。**
2	○電解質・非電解質について理解する また電解質であっても、水溶液の種類によって電流の大きさが異なることに気付く。
3 （本時）	○〈実験 2〉塩化銅水溶液・塩酸の電気分解 個 集 塩化銅水溶液や塩酸に電流を流したとき、電極付近で起こる変化を観察したり、電極に生じる物質の性質を調べたりして、電流が流れたときに起こる変化を考える。 **★【問いの工夫】電気分解を行ってできた物質を、どんな方法を使って特定すれば良いのだろう。** **★【活動の工夫】各極にできた物質だけでなく、その物質の電気的性質についても触れながら実験を行う。**
4	○塩化銅水溶液、塩酸の電気分解でできた物質とその性質について理解する。また、それぞれの原子のもととなるものの電気的性質についても理解する
5	○原子のなり立ちについて理解する ○原子の中の電子が増えたり減ったりして、電気を帯びたものになること（イオン）を理解する。
6	○電解質が水にとけて陽イオンと陰イオンに分かれ、電離することを理解する ○電解質と非電解質の水溶液の電離の様子を考え、電気を通す条件と通さない条件を見いだす。

4　本時の展開

ねらい：物質のもととなるものの電気的性質について考えよう

時 間	○学習内容・学習活動 **★【場面の工夫・問いの工夫】**	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （5 分）	○既習の確認と予想 個電流を通す水溶液と通さない水溶液があったことを思い出す。電流を通すことで、水溶液が何に分解されるか、化学反応式から予想する。	・既習事項の振り返りを確実に行い、一人一人が予想をもてるよう支援する。	
展開 （35 分）	**電気分解を行ってできた物質を、どんな方法を使って特定すれば良いのだろう。**		
	○実験 集塩化銅水溶液の電気分解を行う。 ・塩化銅の化学式から、何ができるか予想してから実験を行う。 ・陽極、陰極を入れ替えてできる物質が同じであることに気付く。 ・分解でできた気体と固体の確認を、においをかいだり色を見たりして特定する。 集塩酸の電気分解を行う。 ・塩酸の化学式から、何ができるか予想してから実験を行う。 ・塩素の性質として、においだけでなく漂白作用があることも確認する。 ・陰極にできた物質に火を近づけたときの反応を見、物質を特定する。	・ぬれた手で電源を触らないようにする。 ・薬品の取り扱いを注意する。 ・班で役割分担をさせ、全員が実験に参加するよう指導する。	【思・判・表】 実験結果を基に考察し、物質の特定を行おうとしている。 （実験レポート） 【知・技】 これまで学んだ方法を使い、適切に物質を特定することができている。（観察）
	○考察 集塩素の性質はどんなものがあるかを考えさせる。また、塩素は陽極に発生したことから、「塩素の元」となるものは、電気的にどのような性質があるかを考える。	実験結果を共有させ、集団で考えさせることで、考察の仕方を定着させる。	
終末 （5 分）	振り返り 個予想と結果が合っていたかを確認する。 個各極にできた物質に共通点があるか、電気的性質はどうなっているのかを考える。	磁石の性質にふれ、異なる記号だと引き合うことを思い出させる。陽（＋）極と陰（―）極に引き合う電気の種類に気付かせる。	【思・判・表】 物質のもととなるものの電気的性質について考えようとしている。 （実験レポート）

○授業観察の視点（全教員共通）

①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。

②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。

③生徒は主体性を発揮できていたか。